

西武鉄道とJR 東日本は、鉄道技術分野での協力を強化し、
新たな時代に対応したスマートな事業運営を加速します！

- 西武鉄道株式会社（本社：埼玉県所沢市、社長：喜多村 樹美男、以下「西武鉄道」）と東日本旅客鉄道株式会社（本社：東京都渋谷区、社長：深澤 祐二、以下「JR 東日本」）は、2020年12月より進めている株式会社西武ホールディングスとJR 東日本の包括的連携のもと、スタンプラリーやハイキングイベントの共同開催、西武鉄道の駅ナカコンビニ「トモニ」の取り扱い商品拡充など、営業面における多種多様な連携を進めてきました。
- このたび、西武鉄道とJR 東日本はスマートな事業運営の加速を目的とし、2022年9月28日に鉄道技術分野における覚書を締結しました。今後、社会環境が目まぐるしく変化する状況においても、安全で安定した輸送サービスをお客さまに提供し続けるため、これまで独自に研究開発を進めていた鉄道技術の垣根を取り払い、両社の協力を一層強化します。

1. 両社の取り組みについて

JR 東日本グループでは、安全を経営のトッププライオリティとして、駅ホームにおける安全性向上を目指し、ホームドアの早期整備を実現するためスマートホームドアの導入を推進してきました。また、最新技術を広く活用し、お客さま視点の輸送サービス、SDGs を意識した鉄道運営、社員の働き方改革を目指し首都圏の輸送システムの変革を進めています。具体的には、ATACS（無線式列車制御システム）を導入し、ATO（自動列車運転装置）の高性能化により、輸送安定性の向上および、お客さまの需要やニーズに応じた柔軟な運行を目指しているほか、首都圏主要線区において、ワンマン運転に向けた準備や将来のドライバレス運転の導入に向けた開発を進めています。

西武鉄道においても、「新たな時代に対応し、シームレスな移動・暮らしや、スマートな事業運営の実現」をテーマに、「お客さまへ安全・安心を提供するためのホームドア整備の加速」「より安全性・安定性の高い信号保安装置の導入」「ワンマン運転エリア拡張などの運転業務のスマート化」などの実現に向け、各種設備の導入を進めています。

本覚書の締結により、両社が持つ技術・ノウハウを活用し、安全で安定した輸送サービスを提供し続けるため、協力を一層強化して取り組んでまいります。



2. 鉄道技術分野における連携の目的

幅広い技術分野で協力・研究し、新しい技術を導入する際の仕様共通化など、設備導入のスピードアップや開発コストの低減に取り組むことで、スマートな事業運営を目指します。